

研究種目：基盤研究（C）
 研究期間：2007～2008
 課題番号：19530854
 研究課題名（和文） 発達障害者のコミュニケーション支援—コンサルテーションとその評価システムの開発—
 研究課題名（英文） Application of consultation program targeted to communication skills in persons with developmental disabilities
 研究代表者
 宮崎 眞 (MIYAZAKI MAKOTO)
 岩手大学・教育学部・教授
 研究者番号：60361036

研究成果の概要：

特別支援学校が地域のセンター的機能を果たすことが制度化された今日、コンサルテーションが注目されている。このように注目を集める中、優れたコンサルテーションの解説書が出版されて（加藤・大石,2004や Sheridan & Kratochwill,1996)いるものの、困った行動などの問題解決が中心となっており、その他のニーズに対応するために多様なコンサルテーションモデルが開発される必要がある。本研究は、初期コミュニケーション（社会的スキルを含む）に特化した新たなコンサルテーション・マニュアルを作成し、そのマニュアルに基づいた指導を実施し、報告書を作成した。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	400,000	120,000	520,000
2008年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
年度			
総計	900,000	270,000	1,170,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・特別支援教育

キーワード：特別支援教育，コンサルテーション，コミュニケーション，知的障害，自閉

1. 研究開始当初の背景

人間が社会生活を送る上でコミュニケーション行動の重要性を疑う余地はない。知的障害者や自閉症者（以下、知的障害者らと略す）の教育においてもコミュニケーション行動

の指導の意義は強調してもし過ぎることはない。コミュニケーション行動の重要性のため以前より知的障害者らに対するコミュニケーションのアセスメント、指導計画の立案、指導技法などの研究が進められ、実用的で効

果的な場面設定の方法、指導法、大人の対応の方法などが解明あるいは開発されている(山本・加藤 1997, Downing, J. E., 1999, Kaiser, A. R. 2000 など)。

特別支援学校や特別支援学級におけるコミュニケーションの指導は、国語の教科指導あるいは領域教科を合わせた指導(生活単元学習、日常生活の指導など)において実施されている。これらの指導の課題として、担当する教員の力量によってコミュニケーション指導の成果にばらつきがあること、領域教科を合わせた指導においてはコミュニケーション行動よりも作業動作や意欲が優先されがちで、偶発的、結果的にコミュニケーション行動が促進されるといった”発達を待つ”指導が多いことである。指導に関する説明責任を果たすことが求められる現在、個別の指導計画を中心に据え、一人ひとりの個別の教育的ニーズに応じた戦略的で根拠に基づいた指導(evidence-based practice)が求められている(宇野, 2004)。同様に、小中学校の知的障害のない発達障害児者の場合においても、コミュニケーション行動(社会的スキルを含む)の発達を促す特別な教育的ニーズに応じた指導を待ち望んでいると予想される。

以上をまとめると、研究レベルでは知的障害者らに対するコミュニケーション行動の様々な指導法が開発されその成果が発表されている一方で、特別支援教育の現場では十分にその研究成果が行き渡らず、一部の熱心な教員によって散発的に実践が行われている。このような状況を改善する手立ての一つとして、コンサルテーションの手法がある。また、特別支援学校がその地域のセンター的機能を果たすことが制度化された今日、地域の小中学校などへの支援の手立てとしてコンサルテーションが注目されている(加藤・大石, 200)。平成18年度日本特殊教育学会大会において8本の発表があった。このように需要が高まる中、コンサルテーションの体系的な解説書は、加藤・大石(2004)やSheridan, & Kratochwill(1996)などである。しかし、これらの解説書は困った行動などの問題解決が中心となっており、その他のニーズに対応するために多様なコンサルテーションモデルが今後開発され必要がある。本研究はコミュニケーションに特化した新たなコンサルテーションモデルの開発を目指す。

2. 研究の目的

本研究の目的は、以下の4つである。

(1) コミュニケーション行動を促すためのコンサルテーションのプロセスを定式化し、各プロセスに必要な書式を作成すること。

(2) (1)の作業で作成した書式などを統合しコンサルテーションの実用的なマニュアルを作成すること。

(3) コンサルテーション・マニュアルに従って、コンサルテーションを実施し、コミュニケーション行動の発達支援の効果測定を行い、マニュアルの妥当性を検討し、必要に応じて改良を加えること。

(4) コンサルテーションのマニュアルとケース研究から構成される報告書を作成し、公開すること。

3. 研究の方法

(1) 研究期間

2年間。各年次にコミュニケーションに関するコンサルテーションを行う。

(2) 対象児童生徒

本研究は学齢期の知的障害児者および知的障害を伴う自閉症児者などを対象とする。精神・発達年齢が2歳～4歳レベルの中重度の知的知的障害を有する児童生徒を対象とする。

(3) 研究計画

1年次において、コンサルテーションのマニュアル案と記録用紙案、コンサルティールによるコンサルテーションの評価用紙の試案を作成する。同時に、コミュニケーションに関するコンサルテーションを実施する。

2年次において、4月から12月まで、コミュニケーションに関するコンサルテーションを実施する。コンサルテーションのプロセスは、マニュアルに従い進める。問題の同定、問題の分析・指導計画の作成、指導の実

施、指導の評価の各プロセスにおいて、最低2回のコンサルテーションを実施する。また、コミュニケーション行動のアセスメント、指導の実施および評価については、研究協力者と共に行動観察および記録を行う。

コンサルテーションの各プロセスが終了した時、所定の評価用紙および面談を通して、コンサルティからコンサルテーションの評価を受ける。

2年次の1月から3月において、コミュニケーションの初期発達のアセスメントを含めた、コンサルテーションのマニュアルと、ケース研究を含めた報告書を作成する。

4. 研究の成果

特別支援学校が地域のセンター的機能を果たすことが制度化された今日、地域の小中学校などへの支援の手立てとしてコンサルテーションが注目されている(加藤・大石,200)。本研究はコミュニケーションに特化した新たなコンサルテーションモデルを開発することとした。その際、コミュニケーション行動のコンサルテーションには、アセスメントおよび指導方法に関して専門的な知識が必要であることから、このような知識も含めたマニュアルを新たに作成することとした。

具体的な成果は、下記の通りである。

- ①コミュニケーションに関するコンサルテーションの過程の中の、アセスメントの手順と必要な書式を作成した。
- ②コミュニケーションに関するコンサルテーションの過程の中の、指導方針・目標を設定する手順を作成した。
- ③複数の特別支援学校において、コンサルテーションを実施し、上記のアセスメント書式を用いて、コンサルテーションの手順および書式を試行した。
- ④特別支援学校および本大学臨床指導場面で、コンサルテーションマニュアル案を活用し、コミュニケーション(社会的スキルを含む)の指導を実施した。その経過を本学部紀要や学会の年次大会にて発表した。
- ⑤平成20年度末に、コミュニケーション(社会的スキルを含む)のアセスメント、指導目標の設定、指導計画の立案、評価を含む

マニュアルを科研費報告書「発達障害者のコミュニケーション支援ーコンサルテーションとその評価システムの開発ー」として冊子にまとめ、公表した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 6件)

- ①宮崎眞・太田和人・昆野玄・澤田真美・高橋かおり・吉田夏子 自閉症児における社会的スキルの指導法の検討ー言語プロンプトおよび文字プロンプト手続きを導入してー. 査読無し, 岩手大学教育学部附属教育実践総合センター紀要,8, 2009,225-234.
- ②下平弥生・宮崎眞 自閉症者のコミュニケーション指導法に関する研究ースクリプト・スクリプト・スクリプトフェイディング法による自発的会話スキルの促進ー. 査読無し, 岩手大学教育学部附属教育実践総合センター紀要,8, 2009, 235-244.
- ③宮崎眞 協働型コンサルテーションの手引き試案の作成(2)ー初期コミュニケーション行動の査定を中心としてー. 査読有り, 岩手大学教育学部研究年報,67,2008,119-134.
- ④宮崎眞・下平弥生・太田和人・玉澤里朱 自閉症者における言語行動の指導法ースクリプトおよびスクリプトフェイディング手続きの検討ー. 査読有り, 岩手大学教育学部研究年報,68,2008,29-41.
- ⑤松田幸恵・宮崎眞 視覚障害と重度知的障害を併せもつ重複障害児における要求および拒否発語の指導. 査読有り, 臨床発達心理実践研究,2008,3,70-74.
- ⑥宮崎眞・下平弥生・藤原有紀・最上一郎・名須川美智子 協働型コンサルテーションの手引き試案の作成. 査読有り, 岩手大学教育学部研究年報, 66,2007,13-25.

[学会発表] (計2件)

①松田幸恵・宮崎眞 発達障害児の社会的スキルの研究ーハプニング場面を活用した問題解決スキルの指導法の検討ー. 日本行動療法学会第34回大会論文集(日本教育会館), 2008.11.2, 222-223.

②松田幸恵・宮崎眞 高機能自閉症児における社会的スキル指導の検討1 日本特殊教育学会第45回大会論文集(兵庫教育大学), 2007.9.22, 303.

[その他]

①宮崎眞 文部科学省科学研究費補助金報告書(冊子体) 発達障害者のコミュニケーション支援ーコンサルテーションとその評価システムの開発ー. 2009

6. 研究組織

(1) 研究代表者

宮崎 眞(MIYAZAKI MAKOTO)
岩手大学・教育学部・教授
研究者番号: 60361036

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし